

# 「名和町」閉町にあたって



名和町長  
山口隆之

しいと願っています。

昨年実施しました町制施行50周年記念事業の加藤登紀子野外コンサートの中で、加藤さんから「町の名前が変わっても、名和の心は変わりません」とメッセージをいただきました。「名和町」という名前はなくなっても、この町が私たちのふるさとであることに変わりはありません。

私たちのふるさと名和町は、中山町・大山町との合併により「大山町」として新たな出発のときを迎えることとなりました。

ここに至りますまでに、町民のみなさまの深いご理解とご協力を賜りましたことに改めて感謝するとともに、いま名和町50年の歴史を振り返り、感慨深いものを感じております。

この50年の長い歲月の中で、その時代時代に求められる生活の基盤や社会基盤、さらには産業の基盤を整えるため、その折々に議会や執行部、そして町民のみなさんのご努力ご協力によって様々な課題を克服し、素晴らしいまちづくりが展開されてきました。

近年は急速に進展する少子高齢化や環境問題など、取り組まなければならぬ課題も時とともに変化しています。これまで町民のみなさんとともに取り組んできた、誰もが安心して暮らせるための福祉施策、未来を確かなものにするための教育施策、町の活力を生み出す産業施策、人に優しく環境に優しい施策など様々な施策が、今後の新しい町においても引き継がれ、さらなる発展飛躍を遂げてほしいと願っています。

新しい「大山町」は、3町民の心ふるさと「大山」をシンボルとして、3町のこれまでの歴史をふまえつつ、特徴的な取り組みやそれぞれに育んできた文化・伝統を大切にしながら、みんなで力を合わせてまちづくりに取り組まなければなりません。これまで以上に町民のみなさん一人ひとりが光り輝く、活気と魅力あふれる町になることを期待しています。

おわりに、名和町への感謝と町民のみなさんのご健勝・ご多幸を願いながら、閉町のごあいさつといたします。

名和町バンザイ！！  
名和町民バンザイ！！

昭和29年に御来屋町・光徳村・名和村・庄内村の1町3村が合併して誕生した名和町は、多くの先人のみなさんのたゆまざる努力と英知の結集により、幾多の困難を克服し、今日こうして大きく発展を遂げることができました。改めてそのご努力に敬意を表し、心からの感謝を申し上げます。

## 合併までのあゆみ

平成14年	12月20日	3町各議会で合併協議会の設置を議決
平成15年	1月1日	西伯郡東部地域合併協議会を設置
	1月6日	鳥取県知事から合併重点支援地域の指定
	1月29日	西伯郡東部地域合併協議会発足式 第1回協議会
	4月6日	合併まちづくりフォーラムを開く
	4月8日	新町まちづくりプラン策定に関する住民アンケートを実施
	4月15日	第1回「新町」まちづくり工房
	5月30日	新町の名称を募集
	6月9日	小学生・中学生に対する合併まちづくりアンケートを実施
	7月1日	新町「夢づくり工房」提言発表会
平成16年	1月27日	第1回「プロロードバンド検討委員会」
	2月上旬	新町の地域情報化に関するアンケートを実施
	5月10日	新町地域情報化に関する提言書を提出
	5月27日	住民説明会を実施
	10月18日	合併協定調印式
	10月27日	各町議会で合併関連議案を議決
	12月17日	県知事への合併申請 県議会で合併を議決
平成17年	1月17日	県知事が合併の決定、総務大臣への届け出
	1月2月	総務大臣の告示 住民説明会を実施

3月28日 新「大山町」誕生！！



### 合併を迎えて 新町への思い

合併協議会委員  
鷲見 豪一さん

いよいよ新「大山町」がスタートする。平成15年1月から2年余、合併協議会に参加した者としては、ぜひとも成功させたいが、本当にスムーズにいかどうか気になるところもある。例えば、合併の目的でもある行財政のスリム化・効率化は、本当に大丈夫であろうか。行政への住民参加はどうであろうか。さらには、3町住民の一体化はどうであろうか。などなど...

私は、この合併の成否は行政だけに責任があるとは思っていない。私も住民も行政依存体質を改め、行財政のスリム化等を念頭に責任をもって積極的に行政に係わっていくことが必要と思う。

そのためにも行政は、問題解決のための行動計画を住民に示し、一体となって取り組む努力をしてもらいたい。合併してよかったと誇れるように！！



### 新「大山町」丸船出のときを前に

合併協議会委員  
金田 多恵子さん

ドラが鳴り響きます。まもなく新「大山町」丸の船出です。大勢の町民の夢と期待、不安と希望を乗せて。あっという間の合併協議会委員としての2年間でした。その間私自身たくさんのことを学び、再認識させていただきました。

一時大山支所庁舎の建設規模をめぐって合併がご破算になるのではという危機もありましたが、何とか再構築することができました。歌の一説ではありませんが、「ボロは着てても心の錦...」の様に表面より中身の問題だと思えます。

なぜ今『合併が必要だったのか』ということ、私たち町民も行政も常に考えつつ、新しい町づくりに努力せねばなりません。まずは4年後の「大山町」の姿に期待しております。